



■外観イメージパース

西南の知の樹をつくる：ブックツリーが西南学院の知の伝統を継承し、考える学生を創造する

西南学院大学キャンパス正門に計画される新図書館は、福岡の文教拠点である西新地区とキャンパスとの結節点として、福岡の新しいシンボルとなる学術・文化拠点です。私たちが提案する図書館は、建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」の理念とキャンパスグランドデザインに基づき、都市・キャンパスと建築が融合し、学生たちがこれまでにない知的創造活動を発信する場です。そのために新図書館を「西南の知の樹」として樹木のような構成とし、中心に知識の幹である「ブックツリー」と、周囲は成長する枝葉としての「ラーニングリーフ」という多様な学生の学びの空間が、全く新しい「考える学生を創造する場」をつくりだします。キャンパスに広がる豊かな樹木と共に「西南の知の樹」である図書館が成長することで、福岡の知と創造のコア(頭脳)として大学・学生と街全体の質が向上する核となります。

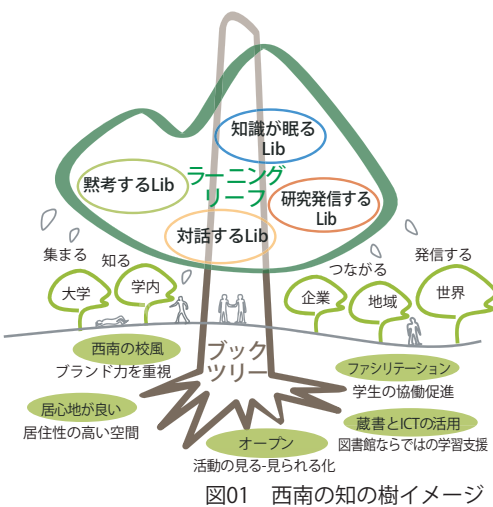


図01 西南の知の樹イメージ

1.西南の知の樹：積層都市型大学図書館として

- ・ブックツリーを中心に学生の居場所が一目で分かる機能的な構成：樹木の幹と枝葉のように、中央に集約された移動空間と周囲に広がる多様な学びの場
- ・西南の知の拠点を象徴：蔵書に囲まれた知の象徴「ブックツリー＝知の幹」多様な学びの場「ラーニングリーフ＝知の枝葉」

2.西南の知・歴史・ひとをつなぐ幹：ブックツリー

- ・6万冊の蔵書に囲まれた移動空間（階段、EV）
- ・本自体が持つ自律性、倫理感を利用者に触発
- ・上下の移動と同時に西南の歴史や文化を自然と体得
- ・1階壁面は学生の創意工夫による展示が行え、街にクリエイティブなメッセージを発信
- ・ブックツリーにより音環境を確実に制御

3.西南の知と交流を創造する枝葉 ラーニングリーフ（まなびの場）

- ・4~7F : 【黙考するLib】
開架書架閲覧は個人が専門的知識を解する場
- ・2~3F : 【研究・発信するLib】
見る見られる場：学生の能動的学修支援
- ・1F : 【対話するLib】
街、キャンパスと対話する開放的な場

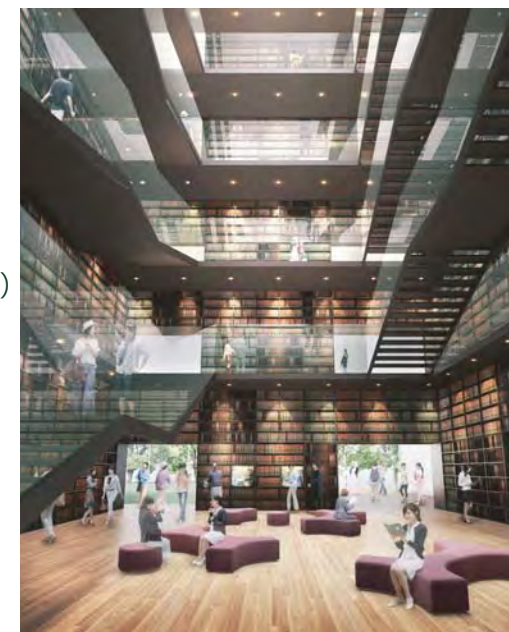
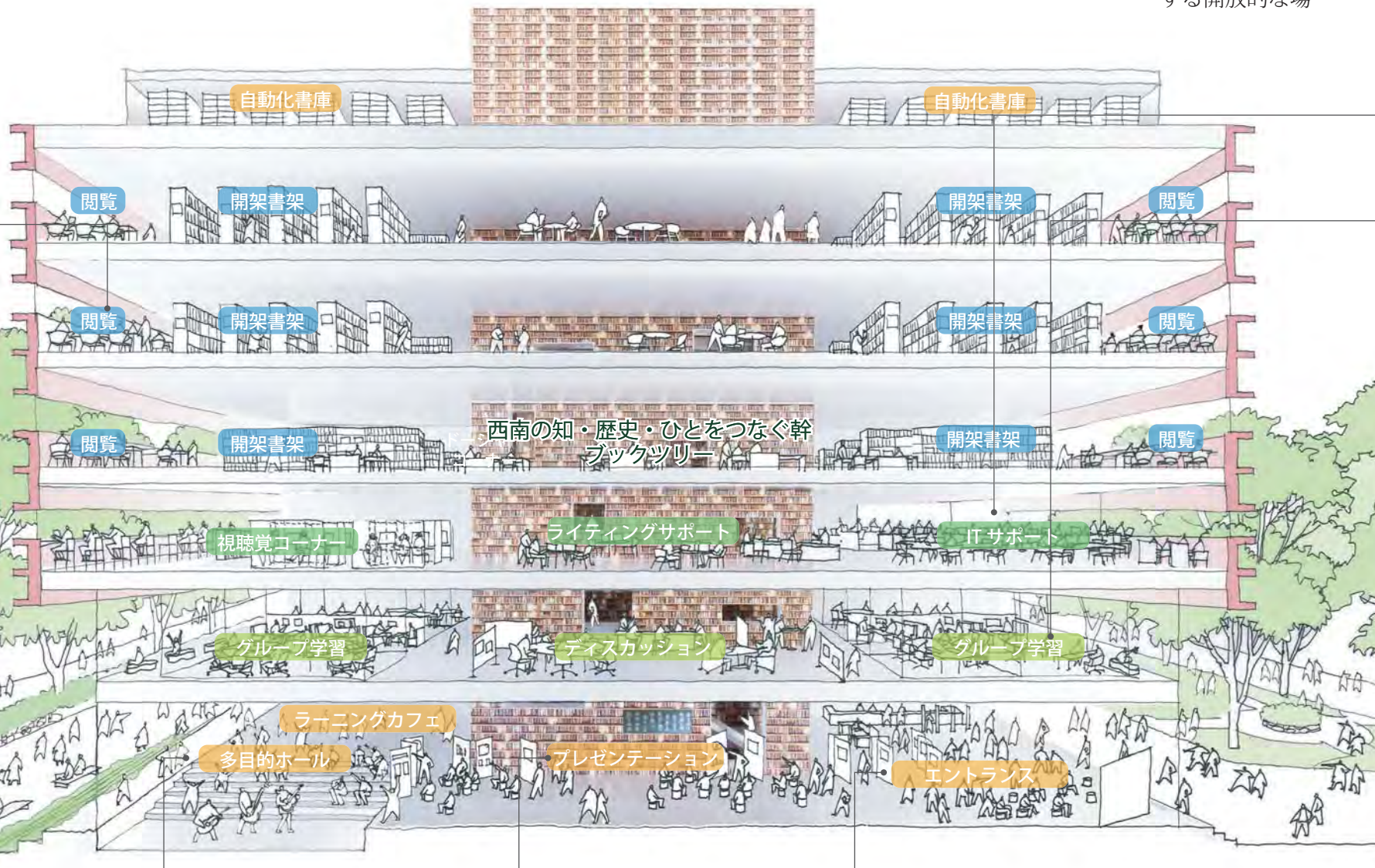


図02 西南の宝：神学書、洋書、歴史展示を配架。自律性を触発するブックツリーのイメージ

各階：リフレッシュ
各階南西角に設置。クスノキの緑の風景が新たな創造・思考の種となる

4~6F：スーパーサイレント
キーボードの音も許容しない集中した知識理解の場

4~6F：閲覧スペース
窓際に設置し、個人の領域を意識した配置
学習する姿が街やキャンパスから見える



3F：IT、ライティングサポート
サポートデスク、プリントラボなど、
個人の学修支援の一元化

2F：グループ学習室
活動の「見る-見られる」環境を実現する
透明ガラスの間仕切。知的刺激を享受

静寂 ↑
4/5/6/7F 【知識が眠る Lib】
集密書架、自動書架
スーパーサイレント

4/5/6F 【黙考する Lib】
開架書架・閲覧

3F 【研究・発信する Lib】
IT、ライティング
国際機関資料室

2F 【研究・発信する Lib】
ディスカッション
グループ学習

1F 【対話する Lib】
エントランス、展示
プレゼンテーション

賑わい ↓

4.西南の伝統と知識を
都市に伝える赤レンガ外壁
キャンパスの統一感と知識を積む意味
をレンガを積む＝積層した知識として
表現したレンガトレサリーによる図書
館外観



図03 「積層した知識」を表現するレンガトレサリー外観イメージ

オールドウェルイン
(ベルギー製)(60%)
バスターレ
(ベルギー製)(20%)
イブストック
(イギリス製)(20%)

図04 西南学院大学のシンボルである赤レンガ

1F：多目的ホール、ラーニングカフェ
街からよく見えるオープンな階段状の空間
は、プレゼンテーション、カフェ
ミーティングなど学生、市民の知的刺激と想
像力の開放を求めて集う遊戯空間

1F：プレゼンテーション
ブックツリー壁面は街・キャンパスに
情報を発信するマチカド・ウォール

1F：エントランス
図書館のシンボル・ブックツリーが正
面に見える学生、地域の憩いの中心

